



# 世界の現状 ジェンダー平等

2020年は、女性の権利推進に向け、最も進歩的な青写真となった「北京宣言および行動綱領」の採択25周年にあたります。その採択以来、一定の前進が見られています。

## 法律



2008年から2017年にかけて、**131カ国**がジェンダー平等に向けて**274件**に上る法改正を施行しました。

## 教育



女児の就学者数は過去最大となり、就学率で**ジェンダー平等**を達成する国も増えています。

## 妊産婦死亡率



世界の妊産婦死亡率は、2000年から2017年にかけて**38%**低下しました。

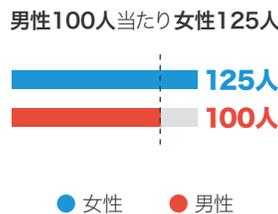
しかし全体として、ジェンダー平等に向けた前進は**スピードも達成度も不十分で、停滞、さらには逆行**しているケースも見られます。

## 政治



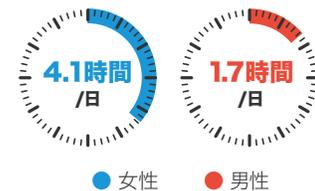
男性は依然として、全世界の一院制議院または下院議員の**4分の3**を占めています。

## 貧困



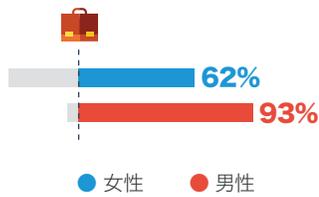
全世界で、25歳から34歳の女性が極度の貧困状態(1日1ドル90セント未満)で暮らす可能性は、男性よりも**25%**高くなっています。

## 無給の育児・介護・家事



女性は平均で、男性の**3倍の時間**に相当する無給の育児・介護・家事をこなしており、これが女性の経済的安定の実現に長期的な影響を及ぼしています。

## 労働参加率



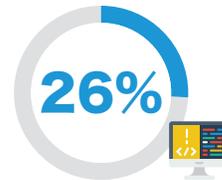
25歳から54歳の成人男女の労働参加率における格差は、過去20年にわたってほぼ横ばいで推移し、世界全体で未だに31%もの差があります。

## インフォーマル経済

7億  
4,000万人

現在、インフォーマル経済で生計を立てている女性は7億4,000万人に上ります。インフォーマル経済では、社会保障も、労働者の権利も、ディーセント・ワーク(働きがいのある人間らしい仕事)の条件も確保されていません。

## テクノロジー分野の女性



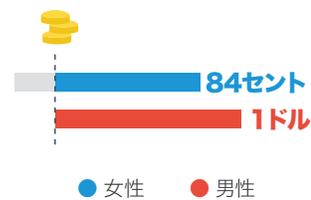
全世界のAIやデータ関連の専門職に女性が占める割合は、わずか26%にすぎません。

## クラウドワーク



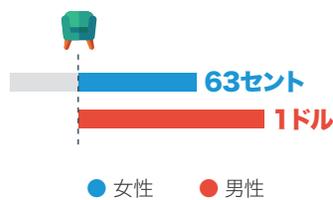
クラウドワーカーのうち、女性は3人に1人にすぎず、開発途上国では男女格差が特に広がっています。

## 男女の賃金格差



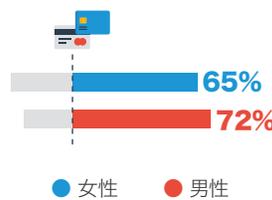
女性の賃金は平均で、男性を16%下回っており、この格差が34%に達している国もあります。

## 年金



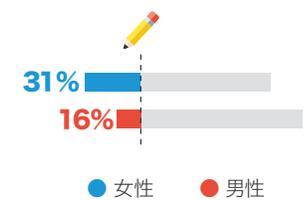
労働市場での男女格差に加え、無給の育児・介護・家事負担の差があることで、男女間の年金格差が生まれています。EUでは、女性の年金受給額が平均で男性を36.6%下回っています。

## 金融機関



全世界で、正規の金融機関に口座を保有する女性は、2017年の時点で65%と、男性の72%を下回っています。

## ユース



全世界で、就業しておらず、教育も職業訓練も受けていないニート状態にある若年女性の割合は、2018年の時点で31%と、若年男性の16%を上回っています。

## 女性に対する暴力



全世界で、女性の18%が、過去12カ月間に親密なパートナーから暴力を受けています。

## 司法への障壁



データが入手できるほとんどの国では、暴力を受けた女性のうち、これを告発したり、何らかの援助を求めたりした者の割合は40%未満となっています。

## 健康

1億  
9,000万人

全世界で、出産可能年齢(15~49歳)にあり妊娠を望まない女性のうち、避妊手段をまったく用いていない人は、2019年の時点で1億9,000万人に上ります。

UN WOMEN  
unwomen.org

#GenerationEquality

@un\_women

fb.com/unwomen

@unwomen